

## 題目

「The Orientation of Psychic Energy Cathexis in Ego States:An Expanded Egograms Model」

## 著者

NISHIKAWA Kazuo 西川和夫\* \*三重大学

## 掲載誌

Transactional Analysis Journal (The International Transactional Analysis Association) 2001, Vol. 31, No. 3, pp. 199~204

## 分類

理論研究

## 問題および目的

Dusay (1972) が開発したエゴグラムは、交流分析における自我状態の五つの機能を量的・視覚的に表示する手段として提供された。エゴグラムは、自我状態が「支配的親 CP」、「養育的親 NP」、「成人 A」、「自由な子ども FC」、「順応した子ども AC」の状態として機能する時に供給される心理エネルギーの量を表すとされる。本研究は、これら五つの機能的自我状態に供給される心理エネルギーの方向に、自己を対象とした活動に供給される志向性と、外界・他者を対象とした活動に供給される志向性の2次元を区別した。自己志向的自我状態と他者志向的自我状態それぞれに五つの機能的状態を仮定して、自己対処と他者対処に関わる合計10の自我状態機能を測定・表示するモデルを提唱する。

## 理論モデル

自己志向 (I oriented) 機能的自我状態は2次元自我状態志向性モデルに基づき、次のような機能が仮定されている：ICP (自己志向支配的親の状態) は、自分が発達途上で取り入れた、自らが望ましい行動をするために自己統制する親を模倣するように機能する。INP (自己志向養育的親の状態) は、自分が発達途上で取り入れた、自らを愛し守り育む親を模倣するように機能する。IA (自己志向成人の状態) は、人が自分の内的主観的現実に対処するように機能する。IFC (自己志向自由な子どもの状態) は、自己の内面世界における、統制されない自由な子どものままの行動・思考・感情を再現するように機能する。IAC (自己志向順応した子どもの状態) は、自己の内面世界における、順応した依存的で無力な子どものままの行動・思考・感情を再現するように機能する。

他者志向 (U oriented) 機能的自我状態は次のような機能が仮定されている：UCP (他者志向支配的親の状態) は、自分が発達途上で取り入れた、子どもを望ましく行動させるように統制する親を模倣するように機能する。UNP (他者志向養育的親の状態) は、自分が発達途上で取り入れた、子どもを愛し守り育む親を模倣するように機能する。UA (他者志向成人の状態) は、人が他者を含む外界の現実に対処するように機能する。UFC (他者志向自由な子どもの状態) は、外界に対して統制されず自由に行動、思考し、

感情を喚起する子どものままの状態を再現するように機能する。UAC（他者志向順応した子どもの状態）は、他者を含む外界において順応依存し無力な子どものままの行動、思考、感情を再現するように機能する。

### 応用的示唆

Dusay (1972) による、不感症の治療に訪れた Mary の症例を用いて例示する。エゴグラムに見られた低い NP（養育的親の状態）に注目して、治療者は彼女に料理を作って人をもてなすなど、他者に温かな養育的世話を提供することで NP の活性化を図ることを助言し、彼女の性的な充足に必要な親密性の獲得を促進した。この症例では暗黙に、他者への養育的機能（UNP）への心理エネルギー供給を増大させる治療的介入を行っている。養育的機能の NP について、自己志向性と他者志向性が弁別されていて、もし、患者が自己志向 NP（INP）が著しく低いことによる不感症の症状を呈していることが判明した場合には、低い他者志向的 NP が想定される Mary とは異なる治療的介入が求められる。この患者には、他者への温かな配慮よりも、まず自分をケアし安心させ癒される体験を得るといふ、自己養育的心理エネルギーの供給を増大させる介入が有効になる。機能的自我状態に供給される心理エネルギーの志向性を弁別することは、よりの確な治療提供につながると考えられる。

（要約者：西川和夫）